

第 14 回目の GIS News! です

いよいよ本格的な「夏」ですね！耳をすませば様々な虫の声が聞こえてくる。そんな夏の休憩時間に GisNews! はいかがですか？Vol.14 では「市販データ」についてご紹介していきたいと思います。最後までどうぞおつきあいください。

市販データって何？

市販データって何？どんなふうに利活用できるの？こんな疑問を抱いている方もおられると思います。今回はデジタル地図と共に販売されている地図データベースを例にご紹介させていただきます。

市販の地図データベース

現在、(株)NTT-ME、(株)ゼンリン、(株)アルプス社などから発売されているデジタル地図には住所属性・建物属性などの情報が標準で網羅されている場合がほとんどです。

このほかにも詳細な情報を別料金で販売している場合もありますので、データ構築の際にはぜひ有効利用していただきたいと思います。

どの企業も「地図データは高い!!」といったイメージを覆すような価格設定を行っておりますので、手軽に導入できると思われれます。

地図データベースの活用

都市計画区域内の地図はあるけれど、それ以外の地区の地図が無い。地図を作る予算も無いし、データベース作成の手間を考えると、GIS 導入には抵抗を感じる」

そんな話を伺うことが多いのですが、これら市販の情報を利用することで大変安価にデータを整備する事が出来ます。

もちろん、市販されているデータ全てが自分の求めるデータベースの要件を満たしているとは言えませんが、データは直接的にも間接的にも利用できますので、是非活用いただきたいと思います。

次回の GIS News!

今回は、8月6日発行予定です。よろしくお付き合いください。

編集 : 協同組合山形県地理情報センター 井上 発行日 : 2001 年 7 月 23 日

Geographic Information System

